

県外派遣報告書

一社) 栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	第6回全日本社会人バスケットボール選手権大会	開催地	岩手県花巻市
報告者名	武井 晋平	派遣期間	令和6年2月22日 ~ 2月24日

2月15日(水) 審判研修会

講師	久保 裕紀氏、小澤 勤氏、佐藤 匠氏、野崎 梨奈氏、富士 将史氏、武藤 陽子氏、内野 翔太氏、宇田津浩史氏
会場	zoomミーティングルーム
<p>○JBA前田喜庸審判委員長より挨拶をいただく。</p> <p>○講師の紹介が行われた後、講義へと移った。</p> <p>○小澤勤氏「プライマリの理解と実践」について ・チェックイン、チェックアウト、オープンアングル、ローテーションについて</p> <p>○野崎梨奈氏「リード・センター・トレイルの役割」 について</p> <p>・リード・・・ペイント内への対応、3or2(エッジ、ヘルプ)、動きながら走りながらの判定はぶれる。CtoCで鳴らない時に備える。パス&クラッシュへの対応。センター・・・3POの生命線。トレイル・・・ビックピックチャメンタリティ、リード、センターが見えないところをカバー。クロック管理。</p> <p>○内野翔太氏「IOTの理解と実践」について・IOTを実践していないと、正しい判定ができない。正しい判定をするためには、吹けなかった時、なぜ吹けなかったのかを映像分析して次に繋げる。知識・経験を元にした強い気持ちでゲームに臨む。IOTを常に意識して取り組むことが大切。どこにいてどのような動きをすればコールできたか←IOT。やってみる。成功したら自分のスキルになる。</p> <p>○富士将史氏「プレーコーリング」について・ファウルについては、特にLGPの意識。プロテクトシューターは怪我をさせないこと。AOSは、アップモーション、ギャザーなのか見極め。</p> <p>○佐藤匠氏「UF・TF・DQ」について・クライテリアの確認、TFを吹く際のボールステータス、フィット、エフェクティブ、ディフェンダブルを意識し、効果があるか。</p> <p>○武藤陽子氏「トラベリング」について・トラベリングなのかという質問をされた時にきちんと説明できることが必要。明らかなトラベリングへの判定。必ず状況と理由がある。ゲーム前:スカウティング、ゲーム中:確認、違和感、反応、吹いた現象、吹けなかった現象の共有、記憶。確認作業を続ける・・・明らかな判定、公平に判定、自信を持って判定することに繋がる。</p>	

2月23日(金祝)

審判員	CC武井晋平(栃木)・U1坂高志(福島)・U2林和希(香川)		
カード	中村消防煌クラブ九州3位/宮崎県 vs BUZZER 中国1位/広島県		
コート	Dコート	主任	宇田津浩史(JSB)
<p>・PGCでは、ベイシックなメカニクスの確認を行った。ローテーション、センター側でのダブルチームがあった場合の対応、エッジの判定。バックコートに2ペア以上残っていた場合センターが残る等。基本的な部分を振り返った。また、時計の管理、ファウルの数、シューターの確保についても丁寧に進めていくことを確認した。</p> <p>・試合は、終始競り合いのゲームであった。WのOG選手もいる中、長身の選手への守り方だったり、ガード陣のドライブであったり、アウトサイドからのショットの後のリバウンドなど、クルーで意識して取り組んだ。</p> <p>・試合後の講師からのアドバイスでは、シングルコールが多く、自分のプライマリのレフリーが笛をならせていたことは非常に良かった。プライマリが鳴らなくても、アングルを捉えているレフリーがコールしている印象だった。</p> <p>・ダブルチームが起きた際のシリンダーについて、コンタクトが起きているケースは、シンプルに取り上げていくことで、よりゲームが落ち着いて進んでいくと思う。</p>			

2月24日(土)

審判員	武井晋平(栃木)・水木順仁(秋田)・中村祐貴(岐阜)		
カード	エネステージ熊本九州2位/熊本県 vs Three Horses近畿2位/大阪府		
コート	Fコート	主任	宇田津浩史(JSB)
<p>・昨日のゲーム同様PGCでは、ベイシックなメカニクスの確認を行った。また、時計の管理、ファウルの数、シューターの確保についても丁寧に進めていくことを確認した。ポストプレーに対する、ミスマッチへの対応についても確認した。</p> <p>・ケイデンスホイッスルを意識して試合に臨んだ。自分の課題でもあり、瞬間で吹かないように意識して取り組んだ。試合中も選手がコミュニケーションをとってくる場面が多くあり、事象について、質問があったときは、選手が思っていることを聞き入れながらも、自分がどう見たのかを説明し、コミュニケーションについてトライした。</p> <p>・試合後のミーティングでは、ファウルについてはそれぞれがしっかり判定しているので良かった。ただ、OOBのクルーワークについて、私以外のクルーの二人がヘルプとヘルプを求めた後のディレクションがさらに差し違った場面があり、チームからも指摘があった。私はセンターであったが、2度目の修正は行わずスローインで再開したが、やはり確認できたのであれば、修正すべきだったと反省。</p> <p>・ケイデンスを意識しても、まだ瞬間で吹いてしまったものがあったので、さらに研究を重ね、良いタイミングで笛を鳴らすことができるようレーニングしていきたい。今年度、最後の全国大会への派遣であったが、久しぶりの社会人の大きい大会に参加させていただき、多くの仲間との時間や、新たな仲間の構築など、コート外でも非常に有意義な大会であった。</p>			